

課題のテーマ：災害が起こっても安心な島とは。

離島で安心・安全な生活を営むためには、災害時に備えたしっかりとした準備と、島民全体の意識向上が重要です。私は、実際に島の指定避難所に足を運んだり、島の人と話をしたり調べる中で、いくつかの課題を感じました。まず、災害時における避難先や備蓄状況についての問題点です。式根島の指定避難所である総合開発センターの職員の方に、備蓄の状況について質問したところ、食料の量については把握しておらず、支所が担当しているとのことでした。これは、災害時の対応が現場で迅速に行われる体制が万全ではないと感じました。これは島民の意識の低さも表れているのではないかと感じました。災害時には迅速な情報共有と島民全体での危機意識が必要不可欠だと思います。そのため、すべての人が少なくとも管理して受付にいる人、携わる人、災害時に島を積極的に誘導していかなければならない人は、食料や水などの備蓄状況を把握し、定期的に確認する体制を整えることが必要不可欠だと感じました。

次に、電力供給に関する問題です。ネットで調べましたが、式根島には発電所がなく、隣の新島から電力を供給されています。なので、新島からの供給が止まると島全体が停電してしまいます。このようなリスクに対処するため、式根島自身で電力を供給できる仕組み、たとえば太陽光発電やバッテリーシステムを導入することが求められていると感じます。島民の方から聞いた話だと、島ではすでにEVが導入されたこともあり、それを貯蓄用に使う方法もあるため、バッテリーとしての貯蓄の役割は果たしているようにも思いますが、特に、災害時には電力の確保が生命線となるため、島内での電力供給の自給体制をきちんと整備することを早急に対策するべきだと感じました。

また、観光客の避難対策についても改善するべき点があるとも感じました。サマーシーズンには多くの観光客が訪れる式根島ですが、観光スポット（海水浴場や展望台）から避難先への道筋を示す案内板が不足しているため、観光客が適切に避難できるような体制が整っていないと感じました。観光客が迷わないよう、避難経路を分かりやすく表示する案内板の設置や、観光スポットごと、あるいは民泊ごとに、避難訓練を行うことも検討するべきです。また、観光協会の田村さんも指摘していたように、現状の食料備蓄は島民分だけでも不足しており、観光客が多数滞在している時期には対応しきれない可能性があります。観光客の人数に対応できるよう、常に十分な備蓄を確保することが必要です。

島が災害に強い、安心・安全な島となるためには、島内での電力供給の自給体制の確立（ソーラーパネルやEVの導入の促進とか）、食料や水の備蓄に関する情報共有のベースと管理体制の強化、それに加えて、観光客を巻き込んだ避難体制の整備が重要になってくると思います。これらを整えることで、島にいるすべての人にとって安心な離島生活を実現できると感じました。